

令和5年秋の叙勲社会福祉功勞部門で黒潮町から1名受賞

「令和5年秋の社会福祉功勞者に係る叙勲」に(福)土佐七郷会の森本孝男理事長が選ばれました。

秋の叙勲社会福祉功勞部門は、長年にわたり社会福祉事業に従事しており、その功績が特に顕著である方などを対象に贈られるもの。これまでの地域の障害者支援などの取組が評価されました。

昨年11月28日(火)には、高知市で伝達式が行われ、濱田省司知事より表彰状と勲章が授与されました。



森本理事長

森本理事長は、「県の職員の方から話をいただき、喜んで受章した。大方誠心園の移転や、通所部の開設など、いろいろなことをさせてもらった。今後も施設を整備し、利用者の皆さんがゆつくり過ごせる場所を作っていく。職員の不足の課題解消にも取り組んでいきたい」と話しました。

井上聖也選手が町にのぼり旗寄贈

昨年12月6日(水)、高知ユナイテッドSCの井上聖也選手が来庁し、町にのぼり旗を寄贈しました。

同のぼり旗は、昨シーズン、町やNPO砂浜美術館、大方FC、FC KUROSHIO 84などからの寄付により作成されました。

作成したのぼり旗は4枚。その内1枚は役場本庁くろしおホールに展示され、ほか3枚は寄付を行った各団体などへ寄贈され、練習や試合の際などに会場に立てられる予定です。

井上選手は、「リーグ戦は過去最高の7位、「2023燃ゆる感動かごしま国体」では高知県代表として初優勝と、良い1年になった。今年はJ3に上がれなかったので、来年こそ上がりたい。応援を形にもらえて、力になっている。応えられるように頑張っていきたい」と話しました。



井上選手(右)と松本町長(左)

上川ロマルシェ

昨年11月25日(土)、「上川ロマルシェ」が上川口小学校で開催されました。

児童が中心となり運営する同イベントは、今年で5回目を迎え、「みんなでエンジョイ」をテーマに、地域を盛り上げ、たくさんの人との交流を深めたいという思いで開催されました。

マルシェでは、一般の出店のほか同校児童による出店も行われ、低学年は野菜や果物、自作のクリスマスグッズなど、高学年は自分たちで作ったもち米のほかグリーンレモン、パンなどを販売しました。

来場した塩崎紗織さんは、「子どもたちがこの日に向けて計画し、準備して、盛り上げてくれてるのがよかった。ずっと続いてほしい」と話し、また、同小6年生の小谷葉日さんは、「たくさんのお客さんが来てくれて、お金の受け渡しに混乱したけど、楽しんだり、買ってくれたりして嬉しかった」と話しました。



商品を販売する児童

と話しました。

大方高校でアイデアソン

昨年12月1日(金)、「リモートを活用した黒潮町の観光を変えてしまおう」をテーマに、大方高校でアイデアソンが行われました。

アイデアソンとは、特定のテーマを決めてグループ単位でアイデアを出し合い、その結果を競うイベントのこと。同校2年生の生徒22名のほか、宿毛高校1、2年生の生徒18名や関係者ら約70人が参加しました。

イベントでは、オリエンテーションやグループワークが行われ、グループごとに考えたサービスを畦地和也教育長ほか計4名による審査の後、「町のサーフィンの聖地化」を考えた1班に、最優秀賞が贈られました。



グループワークの様子

1班で発表を行った同校の柿内柊吾さんは、「自分では出てこない意見も出てきて勉強になった。社会人の方の専門的な知識を聞きながら、自分の意見を出せて良かった」と話しました。